

次世代校務DX調達関係者向けセミナー

# 現場で使われ続ける 次世代校務DX実現に向けて

ー先行自治体の事例から学ぶ要件整理のポイントー



## 第1部：先行自治体の事例から読み解く次世代校務DX調達

第1部では、次世代校務DXの環境整備における構造的な難しさを紐解きながら、環境整備を行う際のポイントについて、有識者である鹿児島市教育委員会教育DX担当部長・教育DX戦略アドバイザーである木田博氏のインタビュー動画や先行自治体の仕様書分析結果をもとに以下の通り解説した。

### ■有識者インタビュー動画

次世代校務DXの環境整備を進める場合、まずは「現場のあるべき姿」を描きながら、整備の目的や方針を検討することが重要となる。

そのため、教育DX戦略アドバイザーとして次世代校務DXの整備を推進している木田博氏のインタビュー動画をもとに、検討のポイントを具体的に示した。特に働き方改革にとどまらない「教育の質の向上」を目的に見据えた整備が重要であると解説した。

### 有識者インタビューのポイント

- ①次世代校務DXにおいて目指すべき状態（ゴール）とは？  
「働き方改革」は通過点。教育の質向上につなげる計画を描く
- ②「真に活用される校務DX環境」を構築する際のポイントは？  
効率化だけでなく、データ活用で「これまでできなかったこと」「気づけなかったこと」が可能になる仕組みが現場の積極活用につながる
- ③次世代校務DX環境の費用対効果はどのように説明するとよいか？  
可能な限り定量化（作業の削減時間、アンケート）し、教育の質向上についてはアセスメントなど（SCITN質問紙等）も活用して可視化する
- ④「教育の質向上」につながる具体的な教育データ活用とは？  
スタディログ×ライフログで問題・課題の迅速な把握。今後はAI活用に向けた体制整備も求められる

### ■調達仕様書 メタ分析レポート

次世代校務DXでは様々なシステム・物品等を調達・構築する必要があり、複雑な要件提示が求められる。そのため、先行自治体の仕様書をメタ分析した結果をもとに、調達範囲の傾向や、ベンダーロックイン等を防ぐ具体的な要件表記例（標準準拠、権利・移行時の観点、コスト・責任の観点など）を示した。

現状は「校務支援システム」「ネットワーク統合」「ID管理」など、環境の構築となる部分の調達を中心、データ連携基盤・ダッシュボードは次のステップとして段階的に進めている自治体が多い。

▼調達対象範囲の傾向

① 調達対象範囲 (セット) ② 連携対象として記載あり (別添録) ③ 記載なし(対象外)

自治体	A市	B市	C市	D市	E市	F市	G市	H市
校務支援システム	△	○	○	△	○	○	○	○
ネットワーク	○	○	○	○	○	○	○	○
セキュリティ	○	○	○	○	○	○	○	○
クラウド環境	○	○	○	○	○	○	○	○
クラウドサービス	○	○	○	○	○	○	○	○
クラウドプラットフォーム	○	○	○	○	○	○	○	○
クラウドストレージ	○	○	○	○	○	○	○	○

▼クラウド型校務支援システム 部分のリスク評価

ベンダーロックイン等により今後の整備で身動きが取れないよう、標準仕様への準拠や、データ移行、コスト面の要件などを明記している

リスク回避の観点

標準事項

権利・移行

コスト・責任

### <第1部まとめ>

## 次世代校務DXの構造的な難しさ

① 構成要素が「多い」

×

② 要素同士が「依存し合う」

×

③ 調達の「順番が前後する」

## 2つのアプローチで対応

### 【1】

「現場のあるべき姿」を検討してから設計と調達を行う

- まずは何を実現したいのかのアウトカムから検討
- 「働き方改革」だけでなく、データ利活用による教育の質向上までを見据えた設計を

### 【2】

調達仕様書に将来要件を盛り込む

- リスクヘッジのため、標準規格への準拠、データ移行の扱い、将来コストに関する条件を記載
- 都道府県の選定においても、市区町村側の統合ダッシュボード調達を見据えてデータ標準を求める

## 第2部：第1部の要件整理を踏まえた データ連携基盤・ダッシュボードの考え方と実践事例

第2部では、データ連携基盤・ダッシュボードを整備する際のポイントや、教育現場における具体的な活用事例について、以下の通り解説した。

### ■教育現場で真に活用されるダッシュボードを実現するには

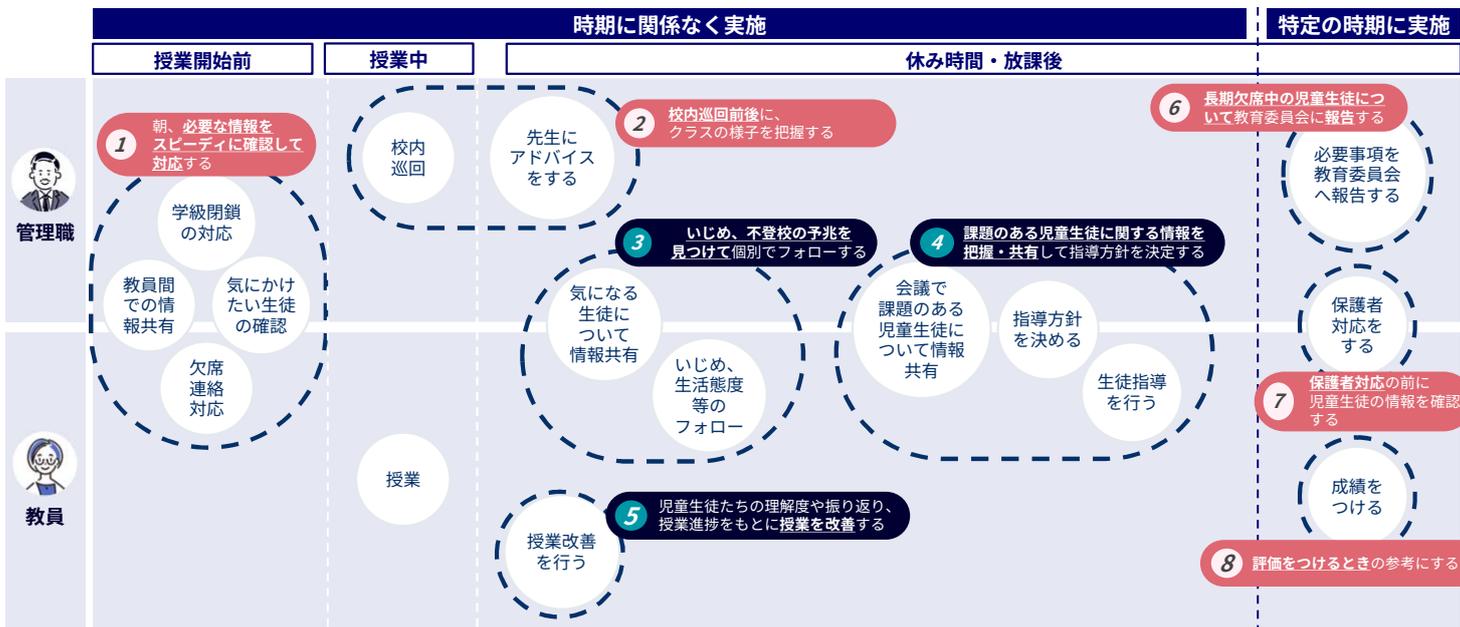
複数システムとのデータ連携による「教育データの活用」は、次世代校務DXの観点の一つとして示されている。しかし、初めから現場が活用しやすいダッシュボードを構築することは非常に難しい。そのため、活用スタート後も現場ヒアリングと改善のサイクルを回し続けることが重要であることを「まなびポケット教育ダッシュボード」（統合ダッシュボード）を提供している先行事例と共に解説した。

実際に活用する教育現場の協力をもとに、現場ヒアリング・プロトタイプ検証  
そして改善をくり返すことが非常に重要です



### ■教育現場における活用事例

実際に「まなびポケット教育ダッシュボード」を提供している学校の活用事例について、教職員の感想コメントと共に紹介した。



### ■一部抜粋）ダッシュボード「AIレポート機能」を活用し、校内巡回前後にクラスの様子を把握した例

校内巡回前後に、クラスの様子を確認する

ダッシュボードのお役立ちポイント  
毎日の校内巡回で先生の見取りとともに、データからもクラスの学級状態や変化のあった子どもを把握できます。生徒や担任の先生への声掛けや関係者との情報連携に役立ちます。

- 1 クラスの状態を総括
- 2 変化のあった子どもをピックアップ

実際に活用した先生の声

面談  
保護者向けにまずは何を話すかの参考になる。テストでは得点取れなかったけれど、本当は授業中こんなに頑張ってますよというところを伝えられたらいいと思います。

成績評価  
通知表コメント作成に2時間以上はかかっており負担になっている。コメントの材料が集まっていて、0から作成しなくて良いのはありがたい。

情報共有  
欠席が2-3日続いている子の、その前の様子や学習の状況を把握して欠席の理由を推測するのにも使いたい。職員室で先生同士会話をするので、そこに取り入れられたらいいと思います。